

番号	委員名 (所属団体等)	ご意見内容	会議での回答内容	回答課	対応方針
1	岡田委員 (地域活動協議会(福島))	発災時に一番動けるのは中学生、高校生ぐらいの年代だと思うので、小・中学生の防災訓練は続けてほしい。 防災リーダーは毎年防災訓練をしているが、他の方も訓練をした方がよいと思う。区役所はどう考えているのか？	各地域で実施されている避難所開設訓練では、地域の一般の方々にも参加していただいている。その他、出前講座もあるので活用していただきたい。	市民協働課(市民協働)	今後も、地域や関係機関と連携しながら、小・中学校の防災訓練をはじめ、避難所開設運営訓練や防災講座などを実施し、地域の防災力向上に努めてまいります。
2	中村委員 (地域活動協議会(上福島))	地域防災について、昨年度までは危機管理室からアドバイザーが派遣されて支援してくれていたが、なくなったのか？なくなったのならその理由や、行政としてどうするつもりなのか教えてほしい。	危機管理室からのアドバイザー派遣事業は終了した。理由として、当派遣事業は元々地域防災計画の策定支援を目的としていたが、市内のほとんどの地域で防災計画を策定し終えたことや、支援が有効に行えない地域もあつたためである。 より効果的に地域の防災活動の支援をするため、派遣事業の経費が各区に予算移管された。区によって取組内容は違うが、福島区では「まちづくりセンター」による支援を行っている。	市民協働課(市民協働)	今年度より、「まちづくりセンター」へ防災に関する取組についても、事業委託を行い、防災アドバイザーによる地域防災活動の支援などを行っています。 今後も、避難所開設運営訓練をはじめ、地域の防災活動を積極的に支援してまいります。
3	岡田委員 (地域活動協議会(福島))	人と人のつながりについて、町会加入者は日頃から会話もあるが、マンション住民は接点がない。通学の見守り活動に参加しているので保護者と話す機会はあるが、あくまで一握りの住民だけである。マンション住民とのつながりを持つにはどうすればよいと思うか？	【三木委員】 大型マンションについては、時間をかけて話している。イベント等も規模がいきなり大きくなってうまくいか手探りになるが、前向きにスタートをきったところである。 【塩津委員】 「まちづくりセンター」の発案で「海老江東ノート」という、生活の役に立つ病院の情報などを掲載したノートを作成した。町会に加入していないマンションにも配布して接点を作るきっかけづくりにしたいと考えている。 【区役所】 マンション住民との接点づくりは各地域とも苦労していると聞いている。区役所も支援をしたいと考えているが、現時点では効果的な手法が見つけられていない。地域の皆さんと一緒に考えながら取り組んでいきたい。	市民協働課(市民協働)	今後も、地域の皆様や「まちづくりセンター」とも連携しながら、地域の活動や町会加入の促進について支援してまいります。
4	岡田委員 (地域活動協議会(福島))	子育てに関する心配事の相談窓口はあるが、福島地域などから区役所までは遠い。各地域の相談室は高齢者だけを対象としているが、窓口の受付は週3日だけ等だから、空いている日に、週1回でもよいので各地域で子育ての相談も受け付けてはどうか？	各地域のコミュニティセンターで開設している「みんなの相談室」事業は、現在のところ利用者のほとんどが高齢者であるが、子育てや障がいを持つ方の相談も受け付けている。令和3年度末頃から各地域の町会長会議などに伺って周知に努めているところだが、今後はさらに幅広い利用者に来ていただけるように広報を強化したい。 また、お近くの「つどいの広場」(子ども・子育てプラザ、子育て支援センター、キリンさんのおうち、ママcafé@fukushima、ふじまめっくルーム)でも子育て相談ができるのでご利用いただきたい。	保健福祉課(地域福祉)	
5	岡田委員 (地域活動協議会(福島))	福島地域は飲食店が多く、賑わうのはよいことだと思うが、カラスが増えて困っている。ごみにネットをかけても散らかされる。区役所で対応してもらえらる担当はあるのか？	カラスが増えたことにより生活環境が悪くなっているということであれば、保健担当へ連絡いただきたい。保健所と連携して対応する。	保健福祉課(保健)	カラスを集めない為には、生ごみを見えなくするように新聞紙で包む等の対策が効果的です。保健福祉課保健担当では、広報紙などでごみの出し方に関する啓発を行うほか、ご連絡を頂ければ状況確認のうえ環境局等と連携して個別にごみの出し方の指導を行う等、カラスによる被害を少しでも抑制できるような対応を行ってまいります。
6	中村委員 (地域活動協議会(上福島))	広報紙の配達が遅い。月によっては10日頃になることもあると地域の方から聞いた。改善をお願いしたい。	区としては毎月5日までに配達をするように配達事業者に委託している。期限までに配達するように改めて事業者へ指導する。	企画総務課(企画推進)	配達事業者へ、毎月5日までの配達を再度配達員に徹底するように指示しました。配達事業者からは、「配達員に5日までの配達を再度徹底させる」という回答を得ております。
7	岡田委員 (地域活動協議会(福島))	小学生の会社訪問などについて、区役所にも見学に来てもらってはどうか？	区内の中学生を対象に職場体験は実施している。新型コロナウイルス感染症の影響で現在は控えておられるようであるが、また要望があれば対応したい。	企画総務課(総務)	
その他いただいたご意見					
8	大船委員 (公署)	盆踊りなど、地域での行事が3年振りに再開する状況になっている。一方で新型コロナウイルス感染症が収束したわけではない。イベントで飲食ができないと盛り上がりがないのではないかと地域で様々な議論があると思うが、感染防止策など工夫をしながら実施し、地域のつながりがづくりができればよいと思う。			
9	山口委員 (公署)	盆踊りや区民まつりで踊る機会はあるが、若い人はなかなか参加しづらいと思う。アイデアの一つとして、「浴衣」を着ることを提案したい。着付けなども含めて世代間交流が図れると思う。			
10	山口委員 (公署)	私自身も子育てを支援する事業をしているが、区の広報紙などでも紹介してもらって助かっている。しかし、子育てしながら手軽に読むには紙媒体の情報よりもスマートフォンの方が便利だと考える。特に若い世代はSNSの「Instagram」で「タグ」を利用して情報収集する人が多いので、区役所の情報発信にも活用してはどうか？情報発信の頻度が多いと、一層注目度も上がるので、定期的に情報発信をするよりよいと思う。			
11	中村委員 (地域活動協議会(上福島))	地元の福島公園で開催された「ふくしまてんこもり2022春」に行ったが、賑わっていて素晴らしい。今後は他の地域でもあのようなイベントをどんどん実施してほしい。			
12	久保委員 (公署)	「ふくしまてんこもり2022春」で飲食ブース関連の調整を担当したが、飲食店と地域とのコミュニケーションが図れたのは良いことだと思う。区の魅力発信について、福島区は「グルメのまち」と認知されている貴重なエリアであり、この魅力は財産だと考えている。飲食店がプラットフォームとなって新たな住民と古くからの住民のコミュニケーションを活性化させる存在になればよいと思う。			
13	塩津委員 (地域活動協議会(海老江東))	区政会議通信をデータで送ってもらうようになり、タイムリーに情報を受け取れるようになったことはよいと思う。一方で、福島区民ハイキングの申し込みは紙でやり取りをして手間がかかっている。区役所が主催の事業ではないが、こういったことの改善も支援してあげてほしい。			